

権威ある方の救い

マルコによる福音書1:21~28 / 李正雨師

幼い頃、うちの近くの公園には、長い雲梯がありました。私も、友達のようにかっこよく雲梯を渡りたかったのですが、腕の力がなかったからか、それとも要領が悪いからか、なかなかうまくできませんでした。しかし、何日間か練習すると、どんどん前に進むことができるようになりました。ある日のことです。ある程度、雲梯を渡ったのに、まだ腕に力が残っていることが感じられました。それで雲梯の半分くらいまで渡りました。ところが、雲梯の真ん中で腕の力が抜けました。もう行けないと思いました。そして、落ちようと思って下を見ると、思ったより雲梯の真ん中は高かったのです。皆様もご存知だと思います。雲梯は真ん中が一番高いのです。急に怖くなりました。手を離せばいいのに、怖くて手を離すこともできませんでした。友達は「大丈夫よ、手を離して」言ってくれましたが、落ちるとケガしそうでした。腕の力がどんどん抜け始めると、涙が浮かんできました。「助けて」と叫びましたが、友達も私を助けてくれる力はありませんでした。その時、通りかかっていたあるおじさんが私を抱きしめて降ろしました。幼い子供が雲梯にぶら下がって泣いているから、助けてくれたのです。降ろされてから、私はどんなに安心したか分かりません。今も、その不安で、漠然とした状況と安心した記憶は生々しいです。そして、私はこの記憶によって救いというものがあるのかを少しは分かるようになったと思います。

私たちキリスト教には、救いという特別なものがあります。一般的にキリスト教の救いとは、死後に起こることを指していると思われていますが、救いは私たちの日常生活でも起こっています。病気から、困難な状況から、苦しみから、神様は私たちを救ってください、平安に導いてくださっているからです。そして究極的に、このような救いは、私たちの死の前で大きな力を発揮します。何の情報もなく、怖く、漠然とした死というものから、私たちを守ってください。聖書は、この救いによってクリスチャンは、神の国に行くことができ、永遠に生きることもできると語っています。これが私たちの信じている救いであり、私たちの日常生活と死の中で起こる救いです。そしてこの救いの源は、イエス様にあります。神様はこの救いの権威をイエス様に与えられ、イエス様はこの権威で私たちに救いを与えてくださいます。1月の最初の主日の福音書であるイエス様の洗礼がこの権威の授与であったなら、今日の福音書は、神様の権威で人間に救いを与えてくださったイエス様についての言葉です。今日の福音書は、イエス様の洗礼の後、初めて行われたイエス様の奇跡についての言葉です。そしてこの奇跡は、イエス様の神的な権威とも関係があります。今日の福音書21-22節の言葉です。「一行はカファルナウムに着いた。イエスは、安息日に会堂に入って教え始められた。人々はその教えに非常に驚いた。律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである。」

イエス様の神的な権威は、奇跡を起こすためだけに使われませんでした。イエス様の教えにも神的な権威があり、この権威は人々にインスピレーションを与えました。それでイエス様の言葉を聞いた人々は驚き、その教えを権威ある教えだと思ったのです。言葉の権威があるということは、ただ話がうまいという意味ではありません。知識を誇ったり、聞く人の耳を楽しませたりするのもありません。聞く人の心を打つこと、生きている神様の言葉を伝えることです。ヘブライ人への手紙4章12節の言葉です。「神の言葉は生きており、力を発揮し、どんな両刃の剣よりも鋭く、精神と霊、関節と骨髄とを切り離すほどに刺し通して、心の思いや考えを見分けることができます。」このような神様の言葉であるので、御言葉は人を変化させ、悟らせることができます。

先週の水曜日は、聖書の分かち合いの最後の時間でした。聖書の分かち合いの中、信仰を持つことになった

きっかけについて分かち合いましたが、いろいろな証を聞くことができました。そして、その証の共通的なものは「御言葉による変化」でした。自分の状況によって、人によって、教会の行事などによって教会に来たのですが、それがクリスチャンになった決定的なきっかけではありませんでした。ただ教会に足を踏み入れたきっかけでした。彼らがクリスチャンになったのは、御言葉によってでした。神様の御言葉が彼らを変えさせ、信仰を持たせたのです。ですから、今日の福音書でも神様の權威は御言葉、イエス様の教えとして示されたのであり、人々はその權威ある教えに驚くことになったのです。

そしてその權威は、御言葉と共に奇跡としても現れます。今日の福音書23節は、イエス様がお入りになった会堂に汚れた霊に取りつかれた男がいたと語ります。彼は、イエス様を見てこう言います。「ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ(24節)。」汚れた霊はイエス様が誰なのかを知っていました。神様の聖者、神様の權威を持つ者であることが分かりました。そしてイエス様によって、自分たちは滅ぼされるということも分かりました。神様の權威の目的、イエス様が洗礼を受けられた理由は、この世の人々の救いにあるからです。それでイエス様は、汚れた霊に取りつかれた者を救われます。25～26節の言葉です。「イエスが、『黙れ。この人から出て行け』とお叱りになると、汚れた霊はその人にけいれんを起こさせ、大声をあげて出て行った。」

イエス様は汚れた霊に取りつかれた人をそのまま放っておきませんでした。汚れた霊を追い払い、彼を救って下さいました。これは、イエス様がどんな目的を持ってこの世に来られたか、イエス様の使命が何であるかを確実に示してくれることです。この世の救い、私たちを救うためにこの世に来られたのです。それで、權威ある言葉で私たちを悟らせ、權威ある力で私たちを救われます。私たちの救いは、私たちの力によるものでも、私たちの良い行いによるものでもありません。神様の戒めをよく守っているからでも、教会に出席しているからでもありません。完全なイエス様の權威によるものです。權威あるイエス様の御言葉で、權威あるイエス様の十字架で、私たちは救いを得ることができるようになりました。神様はこの權威をイエス様に与えられ、これは、今日の福音書に書いてあるように「權威ある新しい教え(27節)」でした。

イエスを信じることだけで救いを得ることができるのか。人間として何か良い行いをしなければならないのではないか。神様の戒めを守らなければならないのではないか。私たちがもっと聖なる人になるべきではないか。このような考え方は悪くはないと思います。しかし、これらの考え方が必ず益になるわけではありません。今日の福音書は、イエス様の言葉と救いに權威があると言います。この權威一つだけで十分です。この權威が神様から来たものだからです。そして、この權威によって、私たちは変えられ、悟られ、救われるのです。カファルナウムの人々を驚かせたイエス様の權威の言葉が皆様を導いてくださいますように。イエス様の救いがこれから永遠に皆様と共にありますように、主の御名によって祈ります。アーメン